



The Tooth Extraction for Mourning:
Custom Connecting Asia, North America and Polynesia

春成秀爾

はじめに

- ①世界の抜歯概観
- ②I¹/I₂様式の抜歯
- ③哀悼抜歯の意義

おわりに



哀悼傷身の習俗の一つに抜歯がある。この抜歯は18～19世紀のハワイ諸島の例が有名である。抜歯は上下の中・側切歯であって、首長や親族の死にさいして極度の哀悼の意をあらわすために1回に2本を抜く。文献記録では、16～18世紀の中国の四川省や貴州省に住んでいた仡佬の例がもっとも古い。しかし、考古資料では、徳島県内谷石棺墓の男性人骨に伴った女性の上顎中切歯1本が哀悼抜歯の存在をしめしており、4世紀までさかのぼる。

中国新石器時代の抜歯は、7000年前に上顎の側切歯を抜くことから始まる。抜歯の年齢・普及率からすると、成人式とかかわりをもつと考えてよい。中国では4500年前になると、この習俗はいったん衰退する。まもなく今度は上下の中・側切歯を抜くことが安徽・江蘇・山東付近で始まる。抜歯の年齢はあがり、その頻度は低くなる。新たに始まったこの抜歯は死者に対する哀悼のためであった、と私は推定する。

上下の中・側切歯を抜いた例は、モンゴル（～19世紀?）、シベリア（新石器～19世紀?）、アメリカ（15世紀以前～19世紀?）、日本（縄文前期～6世紀＝古墳時代）、琉球（縄文～13世紀）、ポリネシア（18～19世紀）で知られている。中国新石器時代に発祥した哀悼抜歯が数千年かけてアジア・アメリカ・太平洋にひろがっていったことを、これらの事実は示唆している。

ポリネシア・シベリア・モンゴルでは、髪を切り身体を刀で傷つける哀悼傷身は、首長や親族との特別に親密な関係を表現し更新する役割を果たしている。考古資料にのこされている哀悼抜歯の痕跡は、墓の内容、男女の別などを考慮することによって、抜歯された人物の社会的な位置を探り、さらにはその社会の構造を解明していく手がかりとなる可能性を秘めている。